

第2期 (2019年度～2023年度)

【地 域 振 興 計 画】

中名地域コミュニティプラン



中名地域コミュニティ協議会

所在地 〒891-0202 鹿児島市喜入中名町 1122
TEL/FAX 099-345-2153
E-mail naka-kouminkan@lily.ocn.ne.jp

目 次

I プラン策定について

1	プラン策定の趣旨	1
2	第1期の成果と課題	1
3	計画の期間	1

II 中名地域の概要

1	地域の概要	2
2	特色ある施設・歴史・文化等	3

III 中名地域の現状と課題

1	まちづくり部会	6
2	安心安全部会	7
3	福祉部会	8
4	青少年育成部会	9
5	社会教育部会	10
6	社会体育部会	11

IV 地域づくりの目標

1	目標（スローガン）	12
2	運営方針	12
3	組織体系図	13
4	活動体系図	14

V 事業計画

6	専門部会	15
---	------	----

VI 資料

1	第2期プラン策定の経過	25
2	第2期プラン策定委員会委員	26

I プラン策定について

1 プラン策定の趣旨

急激な少子高齢化、都市化等による社会の変化は、住民の生活様式や連帯意識の希薄化をもたらし、地域の福祉や安全面での自助共助による地域力の再生が求められている。

そのような中で互いに協力し助け合う環境づくりの必要性から、中名地域の将来像を描きながら第1期コミュニティプラン(地域振興計画)を策定し、構成団体間の支え合い補完による地域課題解決や、地域資源の活用に取り組んできた。

その成果を生かしながら、新たに明確になった地域課題を解決するために、第2期コミュニティプランを策定することにした。

2 第1期の成果と課題

(1) 成果

- ・ 地域づくりの指針・方向性が明確になり、住民の地域づくりへの関心が高まった。
- ・ これまでの既存の行事の踏襲消費型の地域づくりから、地域課題解決型の地域づくりへ転換が図られたことは大きな前進である。
- ・ 各部会主体による地域づくりがなされるようになり、役割分担が明確になった。
- ・ 構成団体間の支え、補完による活動が前進しつつあり、地域に活気が戻りつつある。

(2) 課題

- ・ 「コミュニティ協議会」の名称は確実に浸透してきたが、結の心による地域づくりはまだ希薄である。
- ・ 各部会主体による地域課題解決に取り組み、一定の成果を挙げたが、施設設備の整備など、ハード面の課題解決が残されている。
- ・ 構成団体間の連携は図られつつあるが、住民総参加による地域づくりを確立するため、住民の意識の変革を図る必要がある。
- ・ コミュニティビジネス等による自己資金の確保や、自己実現を図る地域づくりを進める必要がある。
- ・ 多くの人が事業の企画や実施に関わる中で、中名地域を進むべき方向へ導く人材を育てる必要がある。

3 計画の期間

2019年度～2023年度の5年間

Ⅱ 中名地域の概要

1 地域の概要

中名地域は、喜入中心部の北隣に位置し、昔から農業を生業とした純農村地域で、往時から勤勉でよく農業に励み、信仰心が厚く、人情味豊かな地域として知られる。

昭和42年、世界最大級の石油備蓄基地が建設され、この産業の発展とともに当地域も発展してきた。近年、公営住宅等が建設されたが、人口・世帯数ともに微減傾向である。この5年で、小学校児童数が20%減少し、逆に65歳以上の人口が8.4%上昇している。また、専業農家、兼業農家合わせて13戸、水田面積が7.3ha、漁業組合員数も10人それぞれ減っている。少子高齢化は当地域も例外でなく、地域の活性化が課題となっている。

世帯数・人口等

面積 ……10.48km²
 世帯数 ……952世帯
 人口 ……2,052人
 高齢化率 ……33.5%
 ※住民基本台帳 H30.4.1 現在

農水産業

専業農家数 ……36戸
 兼業農家数 ……14戸
 水田面積 ……12.2ha
 畑地面積 ……32.7ha
 樹園地 ……5.0ha
 漁業組合員数…12人

児童数

※児童総数89名
 1年生 ……19名
 2年生 ……18名
 3年生 ……13名
 4年生 ……14名
 5年生 ……12名
 6年生 ……13名
 ※H30.4.6 現在

企業

JX喜入石油基地(株)
 JXマリンサービス(株)
 鹿児島船用品(株)
 株式会社共進組

集落会の状況

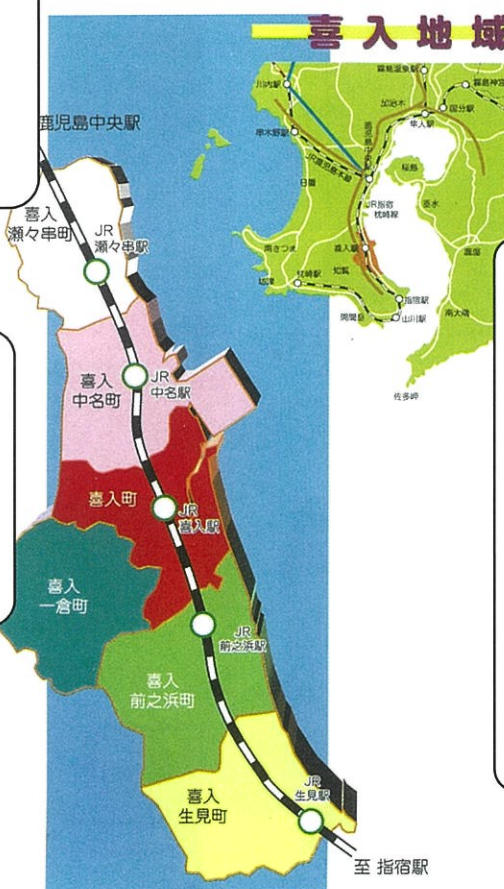
上集落会 ……203戸
 中集落会 ……271戸
 下集落会 ……267戸
 ※集落会加入世帯

公共施設

中名校区公民館
 上集落会公民館
 中集落会公民館
 下集落会公民館
 中名小学校
 喜入海上保安署
 喜入老人憩いの家
 喜入老人給食
 サービスセンター
 中名簡易郵便局
 JR中名駅
 中名保育園

史跡・伝統文化等

棒踊り 塞神社
 樋高大谷展望所
 黒地蔵 清水遺跡
 杵馬場 献穀田記念碑
 耕地整理記念碑
 献上米記念碑
 木場田橋(石橋)
 農道改修記念碑
 金鉾山坑道入口



2 特色ある施設・歴史・文化等



中名校区公民館(コミュニティ協議会事務局)



上集落会公民館



中集落会公民館



下集落会公民館



中名小学校



喜入海上保安署



喜入老人憩いの家



喜入老人給食サービスセンター



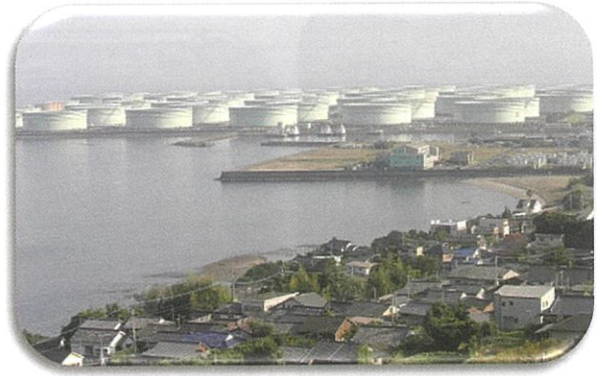
中名簡易郵便局



JR中名駅



中名保育園



JX喜入石油基地(株)



棒 おどり



塞 神 社



樋高大谷展望所(美智子妃の歌碑)



黒 地 蔵



杵 馬 場



献穀田記念碑



耕地整理記念碑



清水遺跡



献上米記念碑



木場田橋(石橋)



農道改修記念碑



金鉱山坑道入口



校区公民館まつり



生涯学習作品展示



校区歩こう会



校区防災訓練



十五夜綱作り

Ⅲ 中名地域の現状と課題

1 まちづくり部会

■ 現 状

- ・ 住民は、中名が自然環境がよく（山、海、田園地域）、のんびり暮らせる、住民の人柄がよいことを住みやすい地域と感じる理由に挙げているが、逆に住みにくさの理由を「買い物が不便」とした人が6割を超える。隣の校区に大型スーパーはあるものの、近くに生活雑貨や食料品などの小売店がなくなったことや、大型店や専門店での買い物が市街地まで出かけなければならないことからであると考えられる。
- ・ 中名の地域づくりに対する意識は、「気持ちはあるが、時間がとれない」とする人が約半数あるが、まさしく20歳代から60歳前後までは就労世代であることが現実である。

ただ、子育て世代の子どもに関する事業への参加率は低くはないので、休日等の活用方法を考慮していくことなども一策である。

- ・ 年2回の一斉清掃への参加率は9割に近く、住民の環境美化に対する関心は高い。また、地域内各所に花が植栽され、四季折々人々の目を楽しませてくれる。ごみ分別への意識も高く、ごみステーションのトラブルは少ない。
- ・ コミュニティ協議会発足後復活した灯籠まつりは子どもたちの灯籠づくりをはじめ、公民館まつり等に多くの住民が参加して賑わいをみせている。また、十五夜行事も毎年の綱づくりから復活させたことにより、子どもと大人とのふれあいの場にもなりながら、伝統文化が継承されている。



灯籠まつり

■ 課 題

- ・ 地域の伝統芸能の棒踊りの継承については、8割の人が必要としており、各集落会で努力しているが、児童数の減少から継承が難しくなっている。校区として、今後の継承をどのようにするべきであるか検討する必要がある。
- ・ 農業従事者の高齢化や農業離れによる後継者不足で、年々放棄田畑が増えてきている。一部田畑の借り上げにより、観光花畑への活用は図ってはいるが、病害虫の発生による耕作田畑への影響や景観の面からも看過できない状況になってきている。
- ・ 協議会役員や住民の地域づくりへの意識の向上や、多くの住民が関心を持つような事業など新しい取組への参考とするために、先進的な地域を学ぶ機会を持つ必要がある。

2 安心安全部会

■ 現 状

- ・ 地域住民は、自然災害、防火防犯、避難訓練などについて、特に若い人が少ない平日の災害発生と高齢者世帯への対応に不安を持っているものの、ここ数十年大きな災害に遭遇していないからか、毎年実施する防災訓練への参加したことのある人は30%にとどまっている。近年増加してきている地震、大雨などの自然災害に対する意識が低いように思われる。
- ・ 防犯については、空き巣や高齢者を狙ったうそ電話詐欺・架空請求などを不安に思っている。特に空き巣に対して不安に思う人が多いが、高齢者の中には鍵をかけずに外出する人もいる。
- ・ 地域内を縦断する国道は、交通量が多く特に朝夕は渋滞も発生する。通勤時間帯には、渋滞を避けて道路幅の狭い集落道をスピードを出して走行する車があり、登下校中の小中学生や高齢者の安全について不安の声がある。
- ・ 知らない人に声をかけられて怖い思いをしたという小中学生が、少数ではあるが、いる。また明かりが少なく怖いと思う中学生の割合が増えている。防犯灯の整備は進んでいるものの、中学生の通学路でまだ不十分なところがあるものと思われる。
- ・ 小中学生の見守り活動については、登下校の時間帯を中心に常時パトロール活動を実施している。また、長期休業中や家庭が留守になりがちな時間帯や夜間パトロールも展開して、犯罪の未然防止に努めている。



校区防災訓練

■ 課 題

- ・ 地域内の自然災害、交通事故等防止を目的とした危険箇所点検は、安心安全ネットワーク会議や校区自主防災会、関係機関等と連携して毎年実施し、指摘箇所については順次改善が図られている。近年想定外の災害が発生していることから、他地域の災害や過去の災害等を踏まえた点検をする必要もある。
- ・ 高齢化に伴い、地域住民が身近に感じる不安としている自然災害等に備えた避難訓練、防火防災訓練を多くの地域住民の参加を得て実施する必要がある。また、防火防犯、防災意識を高め被害防止に向けた講座や交通事故防止のための学習活動を充実する必要がある。
- ・ 人口減に伴う空き家は、今後も増加していくと思われるが、崩壊や防犯等の面からは目視による危険箇所点検が必要である。対処については、行政及び関係機関との連携を図る必要がある。

3 福祉部会

■ 現 状

- ・ 地域住民の地域福祉に対する願いは、「高齢者へのサービス」「お互いに支えあう仕組み」「福祉に関する情報」に、「子育て支援」が高い割合を示している。
- ・ 平成30年4月現在の中名地域の高齢化率(65歳以上)は33.5%で5年前の25.1%から8.4%上がっている。また、小学校の児童数もこの5年間で約20人減少していることから、地域の少子高齢化が急速に進んでいると言える。
- ・ 一人暮らしの高齢者は、各集落調べで約103世帯あり、災害や自らの健康に不安を感じながら生活している。「となり組見守りネットワーク」は、特に、この一人暮らしの高齢者に対する声かけ等により非常時に備えているが、見守る側も高齢化が進んでいる。
- ・ 高齢者交流の場として「高齢者グラウンドゴルフ」を毎月2回実施し、毎回35人ほどの参加があり、休憩時にはお茶を飲みながら楽しく語り合う場となっている。また、「お達者クラブ」は、月2回の集いの場を設けているが、健康づくりやレクリエーション、会食等でふれあいを深めている。
- ・ 毎年9月に実施している「敬老祝賀会」には、75歳以上の対象者が出席し、お祝いの言葉や踊り、歌などで楽しんでもらっている。より充実した催しになるよう各団体の協力を得たい。
- ・ 月2回実施する子育てサロンには、毎回8組の参加があり、親子ふれあいで読み聞かせや季節の行事にちなんだ活動や相談活動を行っている。



敬老祝賀会

■ 課 題

- ・ 地域住民並びに高齢者がふれあえる場として、中名駅近くの空き家を確保したが、必ずしも使い勝手がいいとは言えない。気軽に使えるふれあいサロンになるような手立てが必要である。
- ・ 一人暮らしや家族が遠くにいる高齢者や障がい者への声かけ、見守り活動は誰もが住み慣れた地域で安心して暮らせるまちづくりの中核となる活動である。そのためにも、緊急情報システムの導入や支え合いマップの作成が必要である。
- ・ 地域福祉の充実のため、校区社会福祉協議会をはじめ、民生委員児童委員やともしびグループなどが中心となり活動にあたっているが、今後若手を含めた福祉ボランティアグループの育成に努める必要がある。

4 青少年育成部会

■ 現 状

- ・ 中名地域の子どもたちは、豊かな自然、地域住民の人間性のよさの影響を受け、素直に成長している。
- ・ 青少年育成については、社会環境の変化（個人主義の台頭、プライバシーの尊重）により、他地区からの転入者を含めた住民同士の交流、意思疎通が希薄になり、将来の中名を担う子どもたちを地域住民全体で見守り育てる気風が衰退し、あいご会活動への不参加や関心の低下がうかがわれる。
- ・ 地域住民の各種行事以外での青少年とのふれあいが薄れ、地域ぐるみで子どもを育てる（見守る、ほめる、注意する、叱る）などの意識が薄れ、地域の教育力の低下が見られる。
- ・ 中名小の児童数が減少傾向にある中で各集落ごとの子どもの数に大きな差異があり、子ども会（異年齢）活動に支障をきたしている。したがって、統合も早急に考えなければならない状況にある。
- ・ 高校生が、日ごろ地域内で触れ合う機会が少なく、次代の中名を担うリーダーとしての育成が図れない状況にあり、高校生が地域の活性化に参加できる環境ができていない。高校生クラブは、発足後ボランティアや公民館まつりへの参加などの活動が見られたが、リーダーの不足等で継続が難しい状況がある。
- ・ 地域内で反社会的行動をとる子どもの姿は見られないが、登下校時に知らない人に声をかけられたり、暗くて怖い思いをする小中学生もいることから、かけ込み場所の設定や、パトロール（見守り）活動の継続は必要である。



青少年健全育成大会

■ 課 題

- ・ 中名（薩摩）のよき青少年育成の一つである先輩が後輩を導き育てる縦の人間関係づくりのできる青少年団体（子ども会、高校生クラブ、青年団）の充実のための手立てが必要である。
- ・ あいご会のリーダーとして経験豊富な高齢者の方々の協力を得て、子どもたちとのふれあいや体験活動等により、生きるために必要な生活の知恵を育むとともに、子どものあるなしにかかわらず、全地域住民が進んで協力し、心身ともに健全な子どもを育てる意識を持つ必要がある。
- ・ 「大人が変われば子供が変わる」との言葉があるように、親・大人のあり方や青少年育成に関する学びの場の企画や積極的な活動への参加への手立てが望まれている。

5 社会教育部会

■ 現 状

- ・ 生涯学習の一環として、生きがいある心豊かな人生を築く一助とするため、成人学級・女性学級を開講し、お菓子作りや健康体操、門松・しめ縄づくりに加え人権学習や消費生活学習などをプログラムに入れて学習しているが、参加者がなかなか増加せず運営に苦慮している。
- ・ 地域住民は、成人学級・女性学級の講座として、「生きがいづくり講座」のほか、「趣味の園芸講座」「介護講座」「陶芸教室」「料理教室」に加え、「子育て講座」等の開設を希望している。
- ・ もう一つの学びの場としての文化講演会では、これまで「まちづくり」や「医療福祉」「薩摩狂句と地域づくり」などをテーマとして学習している。
今後も地域住民の要望を聞きながら、幅広い分野から講師を招聘して学びの場を提供していきたい。
- ・ 中名地域には、書道や絵画、盆栽、生け花、手芸、音楽、日本舞踊、ダンス、歌謡など学び続けている方が少なくない。公民館まつりは、これらの方々の発表の場として、また見る側にとっては学びの場としての役割を果たしている。
- ・ 喜入公民館が主催する研修会の広報や参加者の確保、喜入地域総合文化祭への参加、出前講座の開催、成人学級・女性学級運営の支援など喜入公民館との地域づくりと学びの連携が必要不可欠である。
- ・ 地域づくりの核となる人材の育成のため、婦人会の育成や青壮年クラブの結成支援に努めてきているが、なかなか成果を上げるまでに至っていない。



女性学級

■ 課 題

- ・ 地域づくりは人づくり、生涯学び続けようとする地域住民への歴史や文化を学ぶ講座や体験活動等の学習機会の提供と学習成果の発表の機会を確保するとともに、その充実を図る必要がある。
- ・ 成人学級・女性学級の開講に当たっては、受講者の要望を踏まえながら講座の内容や広報のあり方を工夫し、より参加しやすい学級づくりにより受講者を増やしていく必要がある。
- ・ 中名地域にある史跡等を通して歴史を学ぶとともに、伝統芸能や伝統文化の保存継承に努める必要がある。

6 社会体育部会

■ 現 状

- ・ 地域住民は、個々にウォーキングをしたり、同好会を結成してバレーボールや卓球、バドミントンなどのスポーツ活動に取り組んだりしている人がいるが、このようなスポーツ活動に参加したことがない人が半数を占めている。
健康志向の高まりで、自身の体力づくりに励む人がいる反面、全くスポーツ活動に興味のない人もいる。
- ・ 協議会が主催して実施するグラウンドゴルフ大会には、毎年100人を超える人が参加しているが、アンケートでこれまで参加したことがあると回答した人は28%である。校区運動会や地域体育大会への出場者も毎年同じような顔ぶれになることが多い。協議会が実施するスポーツ関連事業に参加している人は、限られた人が多いことから、参加意欲や意識が低いと考えられる。
- ・ 「親子ラジオ体操」や「ウォーキング大会」は、多くの人が継続を希望している。しかし、当日まで広報しなければ十分な参加が得られないのが実情である。
- ・ 地域住民のスポーツの事業の希望は、これまでも実施してきている「グラウンドゴルフ」や「ウォーキング大会」のほか、「ミニバレーボール大会」「卓球大会」さらに「太極拳」「ヨガ」「健康体操教室」「リンパマッサージ・つぼ押し講座」などがある。
- ・ 地域住民から要望のある、夜間のスポーツ活動やまちづくりイベントのための小学校運動場へのナイター設備の設置については、これまで関係部署に要望してあるが、これまでのところ実現していない。

■ 課 題

- ・ 長年続いてきている校区運動会には、これまで多くの参加者があったが、さらに多くの人に参加できるような内容を企画したり、種目を工夫したりすることが求められている。
- ・ 多くの人々が、自身の健康づくりを目的にスポーツ活動に参加している。その一助となるよう、「体力テストと健康チェック」を実施するとともに、「健康づくり講座」を取り入れる必要がある。
- ・ グラウンドゴルフは、高齢者から子どもまで多くの人々が気軽に楽しめるスポーツである。日常的にスポーツをしたくても、なかなか参加できない人のために「グラウンドゴルフ初心者大会」を企画することも一策である。



親子ラジオ体操

IV 地域づくりの目標

1 目標（スローガン）

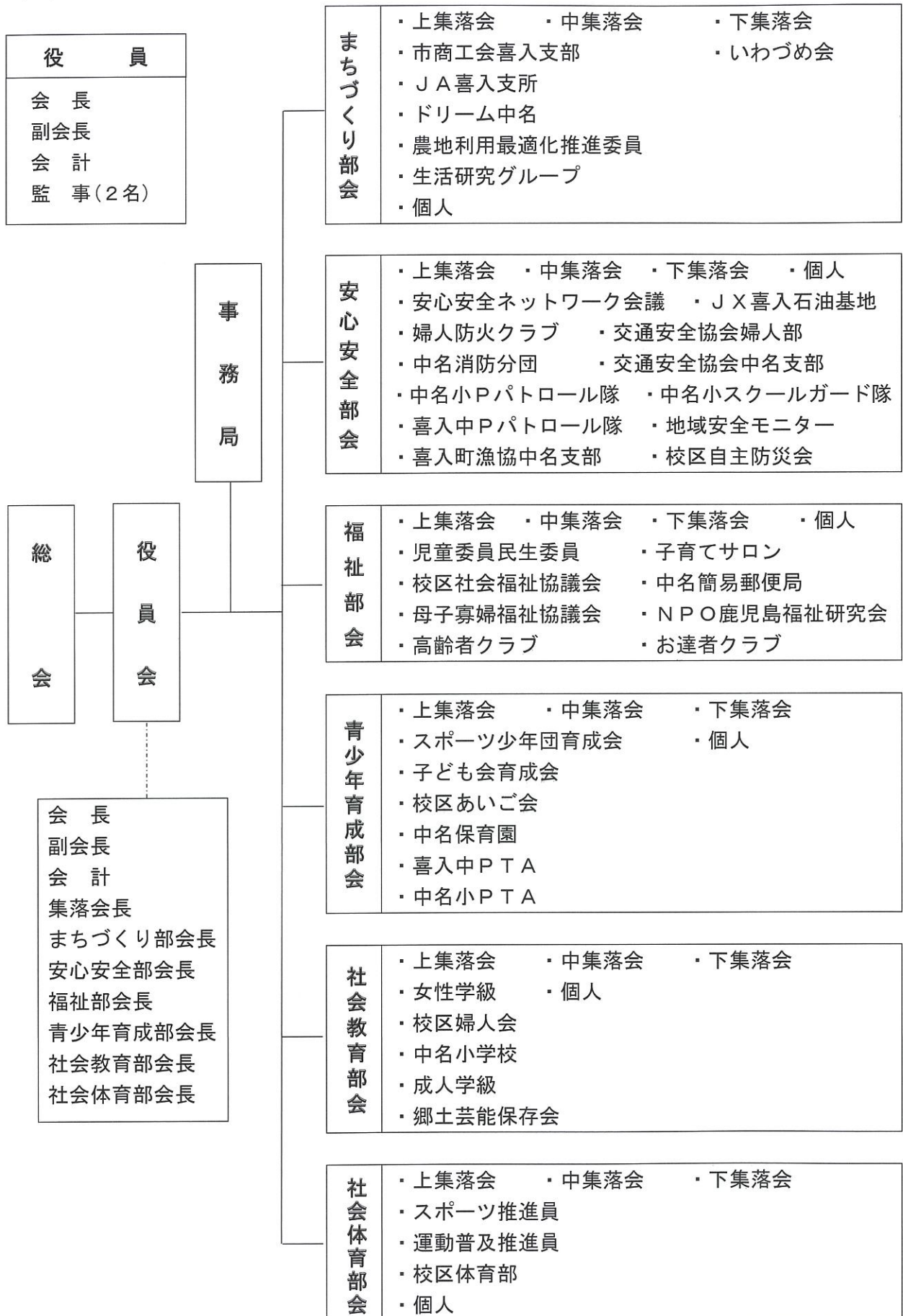
みんなで創る 潤いと活力に満ちた結のまち

未来輝くふるさと中名

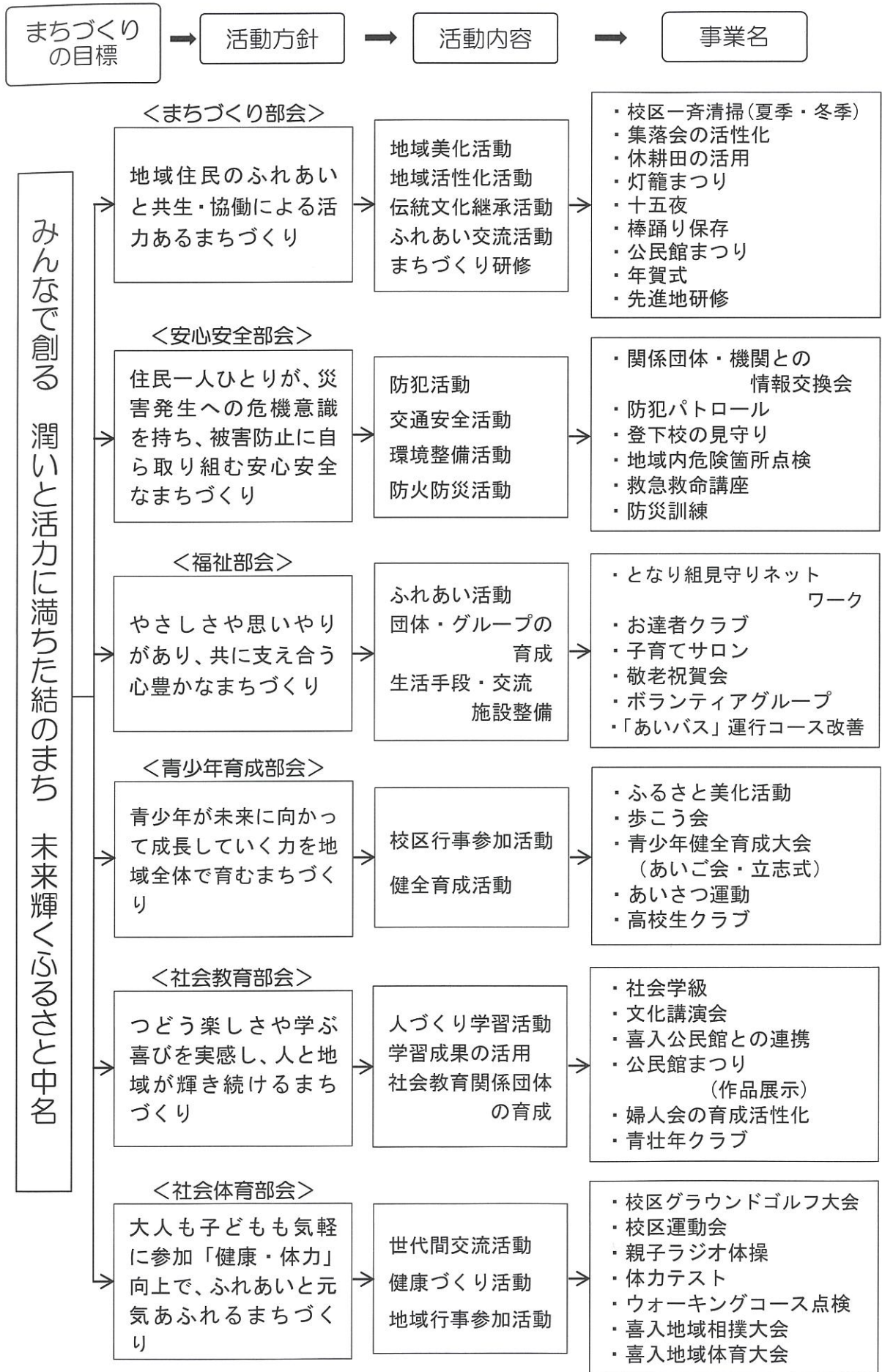
2 運営方針

- (1) 中名地域づくりの目標実現を目指し、地域住民一人ひとりが地域づくりの目標を自覚し、意欲を持ち積極的に参加する諸活動を推進する。
- (2) 地域住民みんな（子どもから高齢者まで）が夢や希望を持ち、共に助け合いながら安全で安心な日常生活がおくれる明るい地域づくりのため、日常活動の強化を図る。
- (3) 地域住民みんなで創る地域づくりを基本に、各部会が主体的且つ積極的な運営に当たる。
- (4) 地域活性化のため、部会や各構成団体間の連携強化を図り、効果的な事業の進進を図る。
- (5) 地域の課題や住民の願いなどをもとに、各事業を工夫改善しながら完全実施に努める。
- (6) 地域住民への情報発信により、地域活動の理解や活動への参加促進を図る。

3 組織体系図



4 活動体系図



V 事業計画

番号	実施 部会	活動方針	活動内容	事業名	事業内容	
1	まちづくり部会	地域住民のふれあいと共生・協働による活力あるまちづくり	地域美化活動	校区一斉清掃 (夏季・冬季)	夏季・冬季に、住民総参加による地域内の美化活動を実施する。	
2			地域活性化活動	集落会の活性化	コミュニティ協議会の基礎は集落会活動であることから、未加入者及び諸活動への支援を推進する。	
3				休耕田の活用	荒廃した休耕田を、「お花畑」として整備し、地域住民総参加で、四季に応じた花の植栽を行う。	
4			伝統文化継承活動		灯籠まつり	子ども会の灯籠と集落会ごとに製作した廻り灯籠で小学校PTAと合同での灯籠まつりを行う。
5					十五夜	十五夜で使用する綱つくりを子どもと大人の共同で行い、その綱を利用したレクリエーションを実施する。青少年に郷土の生活文化を学ぶ機会として伝承の気風を高める。
6					棒踊り保存	少子高齢化や人口減少に伴い継承者の確保や保存の在り方が課題であるので、各集落会の棒踊り保存会と連携を図り保存、継承の検討を進める。
7			ふれあい交流活動		公民館まつり	歌や踊りなどの舞台発表や作品展示を行うとともに、丹精込めて作った農産物を展示し、その出来栄を披露する。
8					年賀式	年頭のあいさつで新年の抱負を誓い合い、新年を祝う式を行う。
9					まちづくり研修	先進地研修

事業効果	事業スケジュール					新規/ 継続	備考(連携先等)
	元	2	3	4	5		
地域内の環境美化が図られるとともに、地域住民のふれあいや絆が深まり地域の連帯意識が高まる。	○	○	○	○	○	継続	喜入支所総務市民課
集落会の組織との連携や活動への支援は、大きな地域力となり、コミュニティ協議会が目指す目標達成に貢献する。	○	○	○	○	○	継続	
荒廃田が解消され、住民の協働意識の高揚が図られるとともに、花の開花で地域の明るさが芽生え、今後の地域の発展が大きく期待される。	○	○	○	○	○	継続	
地域住民の親睦が図られるとともに、先人が残した貴重な地域文化の廻り灯籠の継承への意欲と集落会の連帯意識が高まる。	○	○	○	○	○	継続	小学校 PTA
十五夜の綱つくりを通し、子どもと大人のふれあいを深め、郷土の生活文化の理解及び生活の知恵を学ぶ場となり、青少年の愛郷心が育まれる。	○	○	○	○	○	継続	社会体育部会
棒踊りは、中名唯一の郷土芸能であり、先人たちが苦労しながら継承してきた文化である。地域活性化の柱として保存・継承されるべき大切な活動で、未来の地域づくりへ大きく反映されるものである。	○	○	○	○	○	継続	集落会棒踊り保存会
農産物の披露や作品展示・舞台発表で地域住民のふれあいや交流が図られる。	○	○	○	○	○	継続	社会教育部会
元旦に地域住民が集い、新年を祝う会を開催することは、地域住民の一人ひとりが自覚し協働による様々な地域活動の推進につながる。	○	○	○	○	○	継続	
先進的な地域を学ぶことにより、地域づくりへの連携及び意欲が高められる。	○	○	○	○	○	新規	校区社会福祉協議会

番号	実施 部会	活動方針	活動内容	事業名	事業内容
10	安 心 安 全 部 会	住民一人ひとりが、災害発生への危機意識を持ち、被害防止に自ら取り組む安心安全なまちづくり	防犯活動	関係団体・機関との情報交換会	安心安全ネットワーク会議の構成団体や警察、行政等が一堂に会し、情報交換会を実施する。
11				防犯パトロール	夏季及び冬季休業期間中に、空き家及び廃屋、公園、暗がり等の夜間巡視活動を行う。
12			交通安全活動	登下校の見守り	青パト隊による定例の巡回指導に合わせ、小中 PTA、交通安全協会の合同による巡回や街頭及び交差点での指導を実施する。
13			環境整備活動	地域内危険箇所点検	安心安全ネットワーク会議及び自主防災会、行政、関係団体合同による地域内危険箇所の点検活動を実施し、問題箇所改善の具体策を検討する。
14			防火防災活動	救急救命講座	災害発生時の救急救命方法（応急手当、蘇生）の基本的な知識を学ぶ体験的講座を実施する。
15	防災訓練	何時どこで発生するか分からない災害に備え、防火防災及び避難の心得等防災のあり方を学ぶ。			
16	福 祉 部 会	やさしさや思いやりがあり、共に支え合う心豊かなまちづくり	ふれあい活動	となり組見守りネットワーク	近隣福祉ネットワーク事業を活用し、高齢者や障害者への声かけ及び安否確認の見守り活動を行う。また、緊急情報システムの導入を検討する。
17				お達者クラブ	高齢者が月2回校区公民館に集い、仲間と共に学習や健康レクリエーション、会食などでふれあいを深める。
18				子育てサロン	月2回、未就学児とその保護者を対象に、親子遊びや読み聞かせなどの活動を行うとともに育児相談を実施する。

事業効果	事業スケジュール					新規/ 継続	備考(連携先等)
	元	2	3	4	5		
関係団体、機関等の情報交換により、地域の防火防災防犯に関する課題の共有及び具体的な取組が明確になる。	○	○	○	○	○	継続	鹿児島南警察署 喜入支所総務市民課
夜間の防犯パトロールの実施で非行や犯罪の未然防止や防火に寄与するとともに、地域住民の安心安全なまちづくりへの意識が高まる。	○	○	○	○	○	継続	鹿児島南警察署
児童生徒の登下校時の安全確保や高齢者を含む交通マナーの向上により、不審者による被害防止や交通死亡事故ゼロ運動の推進に寄与する。	○	○	○	○	○	継続	小中 PTA 交通安全協会
災害発生時の被害を最少限に防止できるとともに、具体的な改善対策を「自助・共助・公助」別に明確に区分でき、地域住民の自助活動による迅速な改善が推進されやすくなる。	○	○	○	○	○	継続	喜入支所総務市民課 〃 建設事務所 〃 農林事務所 中名消防分団 中名小学校
被災者や病人の迅速な救助活動が実践されるようになる。	○	○	○	○	○	継続	市南消防署喜入分遣隊
地域住民の災害に対する意識が高まり、日々の準備がなされるとともに、災害発生時には共に支え合う大切さを学ぶ機会となる。	○	○	○	○	○	継続	市南消防署喜入分遣隊
高齢者の仲間づくりや安心安全な生活が確保されるとともに、共に支え合う思いやりの気風が地域に高まる。	○	○	○	○	○	継続	校区社会福祉協議会
地域内の高齢者の交流で、一人暮らしの方の孤独感を解消するとともに、教養を身に付けたり、健康維持につなげたりできる。	○	○	○	○	○	継続	校区社会福祉協議会
親子遊びや読み聞かせにより、親子の絆が深まるとともに、育児の悩みを共有したり、育児相談により解消できる。	○	○	○	○	○	継続	校区社会福祉協議会

番号	実施 部会	活動方針	活動内容	事業名	事業内容
19	福 社 部 会	やさしさや思い やりがあり、共に 支え合う心豊か なまちづくり	ふれあい活動	敬老祝賀会	75歳以上の高齢者を招待し、祝辞や踊り等により地域住民みんなで長寿をお祝いする。
20			団体・グループの育成	ボランティアグループ	ボランティア活動への参加を希望する個人をグループ化し、ボランティア団体を育成する。
21			生活手段・交流施設整備	「あいバス」 運行コース改善	地域内を運行している「あいバス」の、急坂な樋高への運行路線の延長を行政へ要望し改善を図る。
22				ふれあいサロン	市から無償借用している中名駅前の「ふれあいサロン」の活用促進が図られるよう条件整備を行う。
23	青 少 年 育 成 部 会	青少年が未来に 向かって成長し ていく力を地域 全体で育むまち づくり	校区行事参加 活動	ふるさと美化 活動	社会参加活動の一環として、年2回の校区一斉清掃に中学生の異年齢グループを組織して参加する。
24				歩こう会	青少年を主体に、すべての地域住民にも参加を呼びかけ、歩こう会を実施する。
25			健全育成活動	青少年健全育 成大会（あい ご会・立志式）	各集落子ども会ごとに活動の事例発表を行う。その後、立志を迎えた中学2年生を地域住民で祝福し励ます。式典は立志者で企画・立案し、実施する。
26				あいさつ運動	あいさつ通りにのぼり旗・横断幕を設置し、標語の募集等を行うことで、住民のあいさつ運動を推進する。
27				高校生クラブ	高校生で仲間を集い、地域住民の一員として地域にどのように貢献できるかを考え、行事に積極的に参加する。

事業効果	事業スケジュール					新規/ 継続	備考(連携先等)
	元	2	3	4	5		
高齢者の長寿を地域全体で祝福できるとともに、子どもたちや関係する住民とのふれあいの場になる。	○	○	○	○	○	継続	校区社会福祉協議会
参加者が地域のまちづくりを意識したり、地域コミュニティ協議会や構成団体の事業等への協力者が増加したりすることが期待できる。	○	○	○	○	○	継続	
樋高方面の住民で、高齢により交通手段のない方々等を救済できる。また、あいバス利用促進にもつながる。	○	○	○	○	○	継続	校区社会福祉協議会 市交通政策課
「ふれあいサロン」の諸課題を解決することにより、使い勝手がよくなり、活用範囲が広がる。	○	○	○	○	○	継続	喜入支所総務市民課
美化清掃活動を通し、自主性・協力する心・思いやりの心が育まれ、愛郷心が芽生えたとともに地域のすばらしさを知ることができる。	○	○	○	○	○	継続	まちづくり部会
校区を歩きながら、ふるさとを知り、ふるさとの素晴らしさを再発見し、ふるさとへの思いを深めることができる。	○	○	○	○	○	継続	社会体育部会
子どものあるなしにかかわらず、あいご会の趣旨を地域住民で共有できる。また、子どもたちは自分の将来の夢や希望を確認し、それに向かって努力することの自覚を持ち歩み始める良いきっかけとなる。	○	○	○	○	○	継続	校区あいご会
あいさつを交わすことでお互いの顔を知り、気軽に声掛けのできる環境をつくれる。	○	○	○	○	○	継続	
地域の行事に参加することで、愛郷心が芽生え、お互いに支え合い、ふるさとへの思いを高めることができる。	○	○	○	○	○	継続	

番号	実施 部会	活動方針	活動内容	事業名	事業内容
28	社会 教育 部 会	つどう楽しさや 学ぶ喜びを実感 し、人と地域が輝 き続けるまちづ くり	人づくり学習 活動	社会学級	成人・女性の2学級を開講し、 社会の変化に伴う必要課題や 学級生の要望する課題及び地 域課題等を学び合う魅力ある 学習内容を企画し実施する。
29				文化講演会	生涯学習の一環として、文化 講演会を開催し地域住民の教 養や文化意識を高める機会と する。
30				喜入公民館と の連携	喜入公民館との連携を図り、 学びの指導助言を受けなが ら、出前講座や移動講座の実 施や喜入公民館講座等への参 加促進を図る。
31			学習成果の活 用	公民館まつり (作品展示)	公民館まつりの中で、日頃の 学習の成果を展示・舞台発表 する。また、隠れた人材の発 掘の機会ともする。
32			社会教育関係 団体の育成	婦人会の育成 活性化	地域づくりの推進役としての 婦人会の育成（会員確保、組 織活動内容等）や活性化に向 けた支援に努め、組織の充実 を図る。
33				青壮年クラブ	男性の地域づくりの団体とし て、青壮年クラブを結成し、 会員の親睦を図りながら地域 づくり推進の要の団体となる よう育成する。
34	社会 体 育 部 会	大人も子どもも 気軽に参加「健 康・体力」向上で、 ふれあいと元気 あふれるまちづ くり	世代間交流活 動	校区グラウン ドゴルフ大会	日頃グラウンドゴルフをする ことの少ない年代にも参加を 呼びかけ、3集落混合で競技 する。
35				校区運動会	地域住民総参加の運動会を目 指し、だれでも参加できる競 技種目や内容の見直しを図 り、集落対抗で得点を競う。
36			健康づくり活 動	親子ラジオ体 操	地域住民にも参加を呼びか け、夏休み期間中に3回NH K朝のラジオ体操の時間に合 わせて実施する。そのあと簡 単なゲームを行う。

事業効果	事業スケジュール					新規/ 継続	備考(連携先等)
	元	2	3	4	5		
社会生活上の様々な課題について学習する中で、必要な教養を習得し、その成果を地域づくりの力として生かすことができる。	○	○	○	○	○	継続	喜入公民館
地域づくりの原点は人づくり、住民が学ぶことにより地域づくりへの意識が変わり、リーダーとしての参加や協力心の向上が図られる。	○	○	○	○	○	継続	
より質の高い学びを体験することで、さらに「つどい学ぶ」喜びを実感し、生涯学習の推進が図られ、人・生きがい・地域づくりが強化される。	○	○	○	○	○	継続	喜入公民館
地域住民に学習成果の発表の場を提供することで、学習意欲が高まり、学習活動が活発化し、明るく楽しいまちづくりに寄与できる。	○	○	○	○	○	継続	まちづくり部会
地域づくりの主役は婦人会と言われるように、組織が充実すれば大きな力を発揮し、地域をリードする活力ある団体の育成につながる。	○	○	○	○	○	継続	
青壮年クラブが結成されることにより、地域づくりの推進力が高まり、活気あふれ未来輝くふるさとづくりの推進が図られる。また、リーダーの育成にもつながる。	○	○	○	○	○	継続	
高齢者、若い人が年齢に関係なく、グラウンドゴルフの楽しさや健康づくり等について話す場になり、ふれあいと元気なまちづくりが進む。	○	○	○	○	○	継続	
年代を問わず気軽に参加できる種目を企画することで、世代間交流ができ、集落への愛着も深まる。	○	○	○	○	○	継続	中名小学校
ラジオ体操を通し、親子や気の合う仲間など地域住民同士のふれあいの場となり、楽しく健康づくりができるとともに連帯意識が高まる。	○	○	○	○	○	継続	

番号	実施 部会	活動方針	活動内容	事業名	事業内容
37	社 会 体 育 部 会	大人も子どもも 気軽に参加「健 康・体力」向上で、 ふれあいと元気 溢れるまちづく り	健康づくり活 動	体力テスト	成人や高齢者を対象とした簡 単な体力診断テストと健康チ ェックを実施する。
38				ウォーキング コース点検	これまで設置されている4つ のウォーキングコースが、 日々活用され、健康づくりに 役立つ良いコースであるよう 点検する。
39			地域行事参加 活動	喜入地域相撲 大会	小学生の体力・気力づくりと 相撲技の習得のため練習会を 実施する。大会では、団体戦、 個人戦に出場し勝利を目指 す。
40				喜入地域体育 大会	種目ごとの出場選手を選考 し、事前の練習会を実施する。 また、中学生の応援団を結成 し、大会での勝利を目指し競 技の応援を行う。

事業効果	事業スケジュール					新規/ 継続	備考(連携先等)
	元	2	3	4	5		
自分の体力や運動能力を把握し、その結果に基づいた生活改善や運動への取組につながる。	○	○	○	○	○	継続	
安全なコースに保つことで仲間や一人で歩く住民が増え、楽しさを味わいながら、健康づくりが実践される。	○	○	○	○	○	継続	青少年育成部会
裸と裸のぶつかり合いで、相撲の精神「気力・体力・礼儀作法」を学び、心身共にたくましい青少年が育つ。	○	○	○	○	○	継続	
地域住民の健康づくりに寄与するとともに世代間交流ができる。また、地域住民の一体感の醸成につながる。	○	○	○	○	○	継続	

VI 資料

1 第2期プラン策定の経過

平成29年度

10月25日(水)	第1回プラン策定委員会 (第1期プランの総括、プランの内容、スケジュール)
11月15日(水)	第2回プラン策定委員会 (アンケートの項目・内容の決定)
12月8日(金)	アンケートの実施(各集落1割、小学4~6年、中学1~3年)
12月13日(水)	福祉部会(第1期事業の総括、事業内容の検討)
12月18日(月)	まちづくり部会(第1期事業の総括、事業内容の検討)
1月17日(水)	アンケート集計作業
1月18日(木)	社会教育部会(第1期事業の総括、事業内容の検討)
1月19日(金)	安心安全部会(第1期事業の総括、事業内容の検討)
1月21日(日)	社会体育部会(第1期事業の総括、事業内容の検討)
1月29日(月)	青少年育成部会(第1期事業の総括、事業内容の検討)
2月14日(水)	第3回プラン策定委員会 (アンケート分析、各部会事業の反省、第2期事業の見通し等)

平成30年度

5月23日(水)	第4回プラン策定委員会 (第1期プランの成果と課題の決定、まちづくりの目標・運営方針等の決定)
6月15日(金)	まちづくり部会(現状と課題案の検討)
6月17日(日)	社会体育部会(現状と課題案の検討)
6月20日(水)	福祉部会(現状と課題案の検討)
6月22日(金)	社会教育部会(現状と課題案の検討)
6月28日(木)	青少年育成部会(現状と課題案の検討)
6月29日(金)	安心安全部会(現状と課題案の検討)
7月20日(金)	第5回プラン策定委員会(中名地域の概要の決定、各部会の現状と課題の決定)
8月24日(金)	まちづくり部会(事業計画の作成)
9月8日(土)	社会体育部会(事業計画の作成)
9月12日(水)	社会教育部会(事業計画の作成)
9月20日(木)	青少年育成部会(事業計画の作成)
9月25日(火)	福祉部会(事業計画の作成)
9月27日(木)	安心安全部会(事業計画の作成)

10月19日(金)	第6回プラン策定委員会 (各部会の事業計画の決定、活動の体系図の決定)
12月7日(金)	第7回プラン策定委員会 (全ページの確認、校正)
1月7日(月)	地域住民へのプランの周知・意見集約
2月8日(金)	第8回プラン策定委員会 (意見を踏まえた修正箇所の確認、プラン最終案の決定)
2月12日(火)	まちづくり部会(事業の実施要項作成)
2月15日(金)	安心安全部会(事業の実施要項作成)
2月18日(月)	福祉部会(事業の実施要項作成)
2月21日(木)	青少年育成部会(事業の実施要項作成)
2月26日(火)	社会教育部会(事業の実施要項作成)
2月28日(木)	社会体育部会(事業の実施要項作成)

2 第2期プラン策定委員会委員

委員長	今村 亨	コミュニティ協議会会長
副委員長	福里 廣	同副会長・まちづくり部会長
委員	上堀内 勝英	まちづくり副副会長
	下之藪 博幸	安心安全部会長
	横山 幸男	同副副会長
	竹迫 早苗	福祉部会長
	釜付 卓子	同副副会長
	前原 博明	青少年育成部会長
	白石 秀夫	同副副会長
	大橋 鈴子	社会教育部会長
	北 サチ子	同副副会長
	中山 勝由	社会体育部会長
	福永 健一朗	同副副会長
	中道 博哉	学識経験者
庶務	福永 敏子	事務局職員

中名地域コミュニティプラン

平成31年3月発行

中名地域コミュニティ協議会

〒891-0202

鹿児島市喜入中名町1122

TEL/FAX 099-345-2153

E-mail naka-kouminkan@lily.ocn.ne.jp

